| 学校番号 | 109 |
|---|---|

# 令和８年度　公民科

| 教科 | 公民 | 科目 | 公共 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 「公共」新訂版　共につくる未来（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・中学校の公民的分野で学んだ内容よりも幅広く・深く学び「考える力」を身につけます。
・授業では自分の考えを書いたり発表したり表現する場を設けます。その際、インターネットも活用しますが、そのままインターネットの情報を引用するのではなく、いろいろな角度から情報を得て、自分で考え・自分の言葉で表現する練習をしましょう。また、相手に伝えるということを意識し、分かりやすく、伝わりやすい工夫を心がけてください。
・ペアやグループを作り、考えを共有しながら発表する場も設けます。その際にはグループの人と協同できるよう相手の考えも尊重しながら、自分の考えを主張する姿勢を学んでください。
・自分の考えを持つためには、基礎知識は必須です。ただ語句を覚えるだけでなく、その意味や時代背景の流れを小テスト・単元ごとのふりかえり・定期考査を通じて学びます
・家庭学習について長期休暇中にはレポート等の課題を課します。日ごろからニュースなどを見て政治・経済、社会の出来事について、その意味や背景を考えてみましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
・現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
・よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・単元におけるそれぞれの資料を適切に読み取ることができる。<br>・単元の内容を理解している。 | ・単元を多面的、多角的、協同的に考えて適切に表現している。<br>・情報や事実を理解・分析、自分の知識や考えから正答を導く力を身に付ける。 | ・単元を意欲的に理解、解決しようとしている。<br>・単元の理解を通して自覚を深めようとしている。<br>・情報や事実に対して自分なりの課題や問題意識を持ち、取り組む力や自分で調べたりまとめたりする力やそれらの事柄を自分の身近な問題になどに関連付ける力を身に付ける。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 青年期 | ・青年期は人生においてどのような意味をもっているか。<br>・人生における青年期の意義を理解する。<br>・「第二の誕生」とされる青年期において、きみたちはどのように変化していくか。<br>・青年期の特徴を理解する。 | a:資料「第二の誕生」から，第二の誕生がどのような状態であるかについて読み取ることができる。<br>b:自我について資料を活用して多面的に考察している。人生における青年期の意義と特徴について資料を利用して、多面的に考察して適切に表現している。<br>c: 自己理解を深め自分がどう生きるべきかを考察し行動しようとしている。 | 中間考査・小テスト・期末考査 | 中間考査・期末考査・プリント提出・課題発表・自己評価・他者評価 | 学期、単元ごとの振り返りシート |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 自己の形成の課題 | ・自分の欲求が実現されない場合、どう対応すべきだろうか。<br>・青年期において直面する葛藤や欲求不満などの困難とその対処法を理解する。<br>・自分の個性は，どのようにして形成されるのだろうか。<br>・パーソナリティの理論を理解する。<br>・自分の目標の実現と周囲からの期待が一致しない場合、どのように対処すればよいのだろうか。<br>・青年期の発達課題を理解する。 | a:葛藤や欲求不満とその対処法，パーソナリティの理論について理解している。また，ライフサイクルのなかの青年期の発達課題について理解している。<br>アドラーによる劣等感の考察を読み取ることができる。<br>b:望ましい自己のあり方と自己形成について、資料を利用して、多面的に考察して適切に表現している。<br>c:よりよい社会の実現を視野に、青年期の発達課題や自己形成の課題への深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。 | 小テスト、定期考査など | 小テスト、定期考査など | 学期、単元ごとの振り返りシート |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 現代の民主政治と日本国憲法 | ・日本国憲法の基本的性格<br>・日本の政治機構と政治参加<br>・世論と政治参加 | a:法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題から憲法の下権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解している。<br>我が国の安全保障と防衛などに関わる社会の事柄や課題から日本国憲法の平和主義について理解を深めるとともに、日本の防衛にも触れながら変化する国際情勢の中で我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについて理解している。<br>現実社会の諸課題に関わる諸資料から自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集して読み取り、まとめる技能を身に付けている。<br>日本の選挙制度の種類とそれぞれの特徴、課題について理解している。<br>b:自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定して合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現している。<br>選挙の原則、選挙による政治参加について多面的に考察、適切に表現している。<br>c:よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して法や規範の意義及び役割、日本の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。<br>選挙制度について関心を深め、デジタル時代の選挙のあり方、課題を意欲的に解決しようとしている。政治参加と公正な世論の形成について主体的に追究して、課 | 小テスト、定期考査など | 小テスト、定期考査など | 学期、単元ごとの振り返りシート |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 題を意欲的に解決しようとしている。 | | | |
| | 現代の社会経済と国民生活 | ･現代の経済社会<br>･日本経済の特質と国民生活<br>･金融の役割<br>･日本銀行の役割<br>･財政の役割 | a: 経済の仕組みや日本の経済の状況などの知識を身に付けている。<br>金融は、社会を豊かに発展させる役割があることを理解している。<br>中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解している。<br>財政政策は、その他の政策、金融政策などとの調整があることを理解している。<br>公平・中立・簡素の条件を満たすことが税制を構築する上で重要であることを理解している。<br>b: 現代の経済の成果と課題を把握し自分なりに説明・表現できる。様々な情報に触れ、公正に分析し成果･問題点を指摘することができる。<br>景気の局面に対処するため、日本銀行の政策をとっているか、多面的・多角的に根拠をもって考察、構想して表現している。<br>経済安定化の方策について、実現可能性を考慮に入れながら多面的・多角的に考察できている。<br>c:今の日本や世界の状況に対して自分がどう生きるか何を大切にしていきたいかを考えようとしている。<br>金融分野における革新について主体的に追究している。<br>財政による経済の安定化を自税種や税率など、どのようにすすめるべきか、主体的に追究し、課題を意欲的に解決しようとしている。 | 小テスト、定期考査など | 小テスト、定期考査など | 学期、単元ごとの振り返りシート |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | 戦後日本経済の成長と課題 | ・戦後日本の復興過程<br>・経済社会の変化と中小企業<br>・農業と食料問題<br>・消費者問題<br>・労働問題と労働者の権利 | a: 戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊、「失われた 10 年」などの背景や要因について理解している。<br>中小企業と大企業の違い、またベンチャー企業や社会的企業について理解している。<br>日本の農業における課題および、農業基本法や食料・農業・農村基本法、食糧管理制度や新食糧法などの農業政策の流れについて理解している。<br>典型的な消費者問題や悪質商法にはどのようなものがあるか理解している。<br>労働基本権と労働三法の内容について理解している。<br>日本的雇用形態の特徴を理解しており、また、それらのあり方が崩れてきていることを理解している。<br>技術革新によって多様な働き方が可能になっており、ワーク・ライフ・バランスを図ることが重要になっていることを理解している。<br>b: 戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊、「失われた 10 年」などについて多面的・多角的に考察している。<br>日本経済における中小企業の構造的な課題について、大企業との関係や国際化の観点から多面的・多角的に考察している。<br>日本の農業の課題について 6 次産業化や高付加価値農産品、スマート農業の進展などの観点などから協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。<br>消費者主権や消費者の権利の観点などから消費者の権利と責任について, 自由と義務の観点から整理し協働的に考察・構想している。<br>労働法規によって労働者の権 | 小テスト、定期考査など | 小テスト、定期考査など | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 利保護が図られているのか協働的に考察し、それらを適切に表現している。<br>安定雇用と多様な働き方、それぞれの長短を検討する中で選択・判断している。<br>c: 今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して，よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会生活に生かそうとしている。<br>中小企業が経済の基盤ともなっていることに加え，ベンチャー企業や社会的企業が果たしている役割に注目し，これらの学習の成果を将来の職業選択などにおいて生かそうとしている。<br>6 次産業化や高付加価値農産品，スマート農業の進展など農政の新しい動きに注目し，これらの学習の成果を将来の職業選択などにおいて生かそうとしている。<br>消費者問題について学習したことを社会生活に生かそうとしている。<br>よりよい社会の実現を視野に、ワーキングプアの解消やワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。 | | | |
| | | | a:<br>b:<br>c: | | | |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度